



かすりすと

十八模様は久留米かすりのシンボルとしてあらゆるシーンに活用していきます。

かすりすとの集い(交流会)開催!

今年も「かすりすと」の交流会を開催いたします。久留米絣ファンクラブ「かすりすと」が誕生して早7年を迎えました。その間、数々のワークショップ、かすりの小径まつり、織元バスハイク等ファン参加型イベントを開催して参りました。その原点ともいえる「かすりすとの集い」は、久留米絣応援団の皆さんに一堂に会していただき親睦をはかり、絣にまつわる情報を交換していただくイベントです。久留米絣をテーマに、和気あいあいとした楽しいひと時を過ごしていただこうと考えています。年に一度の交流会に是非ご参加下さい。

- ◆開催日/平成25年**2月16日(土)**
- ◆開催時間/17:30受付 18時から20時まで
- ◆タイムスケジュール/
 - ・17時～ 久留米絣展示販売会
 - ・17時30分～ 交流会受付
 - ・18時～20時 交流会「かすりすとの集い」

主なイベント

- 久留米絣作家とのトークライブ
久留米絣の織元さんを迎え、伝統工芸としての久留米絣の技術や伝承など、日頃なかなか聞けない興味深いお話を交えながらの交流トークライブです。
- 久留米絣織元作品展示コーナー
- ベストかすりすと賞の表彰
(素敵な賞品をご用意しております)
- 絣商品販売コーナー

- ◆開催場所/ハynesホテル・久留米 千歳の間
- ◆参加費 /4,000円
- ◆申込方法/ お電話にて先着100名様受付(会員様以外も参加可)
1月7日(月)より受付開始(受付時間10:00~17:00)

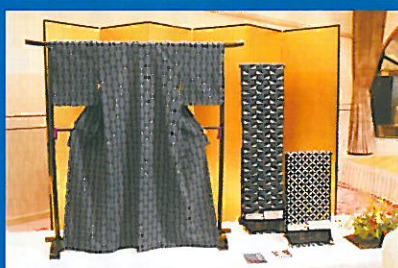
お問い合わせ・お申し込み

地場産くるめ

TEL 0942-44-3700 FAX 0942-43-1020

かすりすとの集いへの参加ご希望の方は、お電話でお申し込みください。

参加者募集



※写真は昨年の集いより

CONTENTS

1p かすりすとの集い参加者募集

2p 久留米かすり秘話Vol.11

『次世代を担う子ども達に繋げていく・つくる喜びと故郷の文化』

3p ・かすりすとバスハイク報告
・かすりすと作品募集

4p ・第59回 日本伝統工芸展 福岡展
・第36回 西部染織作家展
・SHOP INFORMATION

シリーズ

久留米がすり秘話

VOL. 11

『次世代を担う子ども達に繋げていくつくる喜びと故郷の文化』

耳納の麓、田主丸の自然豊かな風土と対話し、詩情あふれる作品を生み出している久留米絣工芸家の松枝哲哉さん。『藍生庵』にて、手くくりした糸を、発酵させた藍の葉で染めて丹念に手織りしていく。長い工程を経て出来上がった久留米絣は、自然の営みが生んだ色合いと松枝さんの感性から生まれたデザインで深い味わいを放つ。

手間暇かけた工程、つくり上げる喜びを体験

「この竹野地区は昭和三十年頃まで藍をつくっていた所。子ども達は藍を育てそれで染めることで、郷土は昔こういうことをやっていたのだということを知ります。藍甕から出した時に黒色だった糸が、絞った途端に青色に変わると、ワッと驚いたり喜んだりしていますよ」

久留米絣の卒業制作は今年で五回目。今年は学級目標の『愛』を『無限大』の中に平仮名で入れ

たデザイン。教室に糸を張り、皆で一齐に手くくりした。墨で書いた印の箇所を二つ麻を裂いて結ぶ。時間もかかるし、結び方が悪ければ解く時にすんなりいかない。有馬藩の時代から二百年以上続く手法だ。靴紐を結ぶのもままならない今の子ども達は悪戦苦闘している様子。

「慣れない子ども達にとって、くくりは正座をするので足が痛いでしょう。手指が痛いことでしょうか。織りも腰が痛くなると思います。でも、織り上げた時には感動していますよ。こうして様々な大変な工程があること、簡単に出来上がらないことを知ってもらいながら、つくり上げる喜びを感じてもらいたい」

まずは故郷の誇れる文化を知ること

出来上がった卒業作品は家に飾られ、それを見る弟妹がまた卒

業制作を楽しみにしている。「卒業生はこの体験が自慢です。自分の育った地域を誇れるというのは素晴らしい事です」と、竹野小の日野正則校長は話す。

「伝統工芸は、使う人もつくる人も次の時代に伝えていかねばなりません。せつかく良い文化があり、久留米絣が伝えられているのだから、見て触れて理解して誇りとしてほしいと思います。産地としても、故郷の誇れるものを今の一人一人が何かしらできる範囲で繋げていく事は大切な事です。子ども達が成人して、どこか頭の隅にでもこの体験が記憶に残ってくれていたらいいし、また次の世

代に伝えてくれたらと思います」

まずは知ること。そして理解し次の世代へと伝えていく。継続は力なりと、松枝さんは日本の伝統工芸や文化の伝承へと思いを馳せながら、今に活きる久留米絣をつくり続けている。

取材協力／藍生庵 松枝哲哉氏
取材・文／森志穂



かすり織元巡りバスハイク

実施日…平成24年11月7日(水)
参加者…24名



池田絣工房の機織り場



池田絣工房での藍染め体験



藍染めオリジナル大判ハンカチできました

車内で簡単な自己紹介をしながら、交流や親睦を深め最初の訪問先筑後市の池田絣工房に到着。

ここでは、絣のできる工程を簡単に説明を受け、手織りの実演を見学ののち、大判ハンカチの藍染め体験を行いました。皆さんそれぞれに工夫を凝らし、世界に1枚しかない素敵な藍染のハンカチの出来上がりにご満悦の様子でした。

はちよと残念そうでした。最後に好きなお酒を購入、二路最後の訪問地、田主丸の右田果樹園へ向かいました。

途中、秋ののどかな田園風景を眺めながら到着。柿狩りを楽しんでいた「この大きなさなら1カゴ2キロぐらいですよ」などと、お客様同士の会話も飛びかいたが楽しそうに購入されていました。

柿狩りを終えたあと、地場産くるめでお茶を二服召し上がっていただき、西鉄久留米駅前へと向かい、皆さんお土産で重たくなった荷物を笑顔で手に持ち、家路につかれました。

お客様のの中には、今回初めて参加できたとの声も数名あり、また参加したいとのありがたいお言葉もいただきました。

(安岡)



繁樹杜氏 池松さんから説明を聞く



繁樹高橋商店 酒蔵での試飲



右田果樹園での柿狩り

「かすりすと」作品展示会作品募集

手の温もりいっぱいの小物から洋服など
絣の作品の出品をお待ちしています!



イメージ写真

かすりをこよなく愛し、愛着し、さらにかすりを普及・PRすることを目的に取組む、かすりのファン倶楽部を「かすりすと」と呼んでいます。あらゆる場面でかすりをPRし、多くの人々に生活の一部として、かすりを身につけ、かすりの良さを再認識することが目的です。久留米かすりは、日本を代表する地場産業という歴史があり、あらゆる生活の場面で使われています。現在、生活様式の変化に伴い利用度は最盛期ほどではありませんが、スローライフな時代、久留米かすり素材はあらゆる場面で活用されています。そこで、3月16日(土)～17日(日)の二日間開催される「藍・愛・で逢いフェスティバル」と同時に「かすりすと」作品展示会を開催いたします。つきましては、右記のとおり作品展示募集いたしますので、出品可能な方はお申込下さい。

1. タイトル: 「かすりすと」手作り作品展示会
2. 展示期間: 平成25年3月16日(土)～17日(日)の2日間
3. 出品条件: ・久留米絣を使用した作品で、自作の物
・基本的に展示搬入準備、片付け搬出可能なこと
・基本小間: テーブル1台程度(1800×600mm)
4. 展示搬入準備: 前日の3月15日(金)午後1時～午後5時
5. 片付け搬出: 3月17日(日)午後5時～午後6時
6. 応募方法: ①住所 ②氏名 ③電話番号 ④作品の出品数と作品名および作品の写真(※郵送もしくはメール、FAXにてご応募ください。)
7. 応募締切日: 平成25年1月31日(木)まで
出品をお願いする場合は、ご連絡いたします。
8. 応募先: 「かすりすと」事務局

財団法人久留米地域地場産業振興センター
TEL: 0942-44-3700 FAX: 0942-43-1020
E-mail: info@jibasankurume.jp

伝統工芸を今に感じて 久留米緋の織りと染に触れる展覧会

日本伝統工芸展のご案内です。本紙でも紹介している久留米緋工芸家の松枝哲哉さんをはじめ、松枝小夜子さん、山村健さん、森山虎雄さん、森山哲浩さんの作品が展示されます。久留米緋の趣き、そして現代の久留米緋の斬新さをお届けします。

福岡で催されるこの作品展は、筑後が生んだ伝統工芸を広く賞賛し県内外の方々にも喜んでいただけることでしょう。

この機会に、ぜひ久留米緋の深い味わいに触れてみませんか。



写真は昨年(2012年)の日本伝統工芸展より

● 第59回 日本伝統工芸展 福岡展
とき／2013年2月6日(水)～2月11日(日・祝)
ところ／福岡三越9階三越ギャラリー

● 第36回 西部染織作家展
とき／2013年2月6日(水)～2月11日(日・祝)
ところ／福岡三越9階美術画廊

問／藍生庵(松枝) TEL.0943-72-4377

緋織元登場 創る



久留米緋製造販売 山村かすり工房

八女郡広川町大字長延252
TEL 0943-32-0136



山村善昭さん 節子さん

復元により伝統的柄が 現代に息づく

明治二十八年創業。現在四代目となる山村善昭さんが緋織りを今に受け継ぐ。現在、アパレル商品に向けた緋の他、祭衣装を手がけている。伝統的柄から現代的柄、小柄から大柄まで手織りでないとし、いといわれる柄も機械織りで見事に仕上げる。十数年前からは、古布の布団柄など古代緋の復元技術に腕を上げた。主にインテリアグッズや洋服のワンポイント柄となつて味わいを醸し出している。

「井上伝さんの柄は久留米緋の基本。歴史的にもずっと愛され続けているのは是非復元したいと思えます。少しでも井上伝さんに近づけるような気がするんです。古布だらけの限りがありますが、復元して新しい反物を織ればその柄は現代に活きることができるわけです。古代と現代がミックスした面白さがある」



「なぜ売れる事をさせたのか、それは最終消費者の声を聞く事の重要さを感じたからです。私、どんな傾向が好まれているのかを知るために現場業者との情報交換は欠かせません」

「製造法は昔ながらの伝統ですが、商品はアパレルという最先端です。従業員さんは家族みたいなものです。家族でつくった緋は子どもと同じ。皆で生み育てている感じがします。新しい柄を織り始める時はドキドキですよ」

「十二年前、転職してきた若手の野瀬さん(現在工場長)を迎え、二十年前に藍染を復活させた。」「久留米緋の良さは自然素材の肌触り。柄的にも故郷を思わせるような素朴感が心を落ち着かせるのだと思います。若い方達にも良さを知っていただきたい」

「何十年も働いているパートさん、四年前に転職してきた若手女性の従業員さんなど、織機の音とともに活気づく工場。これ以上緋織りに最適なものはないと古くから使われている織機が、今も時代を超えて忙しく動き、丹念に目配りされながら反物が織り上がる。」

「新作が織られていた。」

地場産くるめ SHOP INFORMATION

冷え込む日は温かい「ちゃんちゃんこ」はいかがですか？



綿たっぷりなのに、軽くて肌触りの良い故郷を感じさせる羽織です。プレゼントにもピッタリ!!この他にも、身体の内側から温めるお茶やしょうが湯など地場産品を多数取り揃えております。

展示即売場コーナーは地場産くるめ2Fにございます。

毎月11日は「いい日地場産の日」開催!

毎月11日は全品11%OFF (一部商品除く)

TEL.(0942)44-3700 FAX.(0942)43-1020
HP. <http://jibasankurume.jp> 営.10:00～17:00



ふるさとを「張り屋」です!
地場産くるめ
財団法人久留米地域地場産業振興センター